

# 心理・行動症状への 具体的対応

**①同じ話を繰り返す場合の対応**  
**その都度丁寧に対応する。**

**聴きながらその言葉の背景にあるメッ  
セージを読み取り、相手に対して共感する。**

**⇒不安の裏返し**

**⇒甘えていると決め付けない**

⇒安心感を与える声かけや非言語コミュニケーションが効果的。

⇒本人の興味や関心を引き出すことで気分転換を図る。

⇒身体的な痛みや不調を訴えているときは共感、支持することで安定する。

⇒訴えの内容など、具体的に記録しましょう。

## ②嫉妬感情への対応

**ヘルパーが夫や息子などと話をしたい  
親しくしていると、本人の嫉妬心が強  
くなることもある。**

**※可能な限り本人を交えて話しをする  
こと。**

### **③性的行為への対応**

**すける素材の服や、肌を多く露出する服の着用を避け、過剰に刺激しないように留意するとともに、性的な発言などが見られたら毅然とした態度をとる。**

**また、サービス提供責任者に報告をすること。**

#### **④もの盗られ妄想への対応**

**ヘルパーに盗られたと誤解を生じさせないために、訪問の際はできるだけ私物を少なくすること。**

**また、仕事中は本人に見えるような行動を心がけるとともに、本人の持ち物に興味を示したり、過剰にほめたいすることを避ける。**

**探し物を見つけた場合、必ず本人を誘導し、見つけた場所を教えて本人に見つけてもらい「良かったね」などと喜びを共有する。**

## **⑤ヘルパーを他の人と間違えているときの対応**

**「違います」と否定をすると、本人は納得できず余計に混乱してしまうので、その人になじきのも一つの方法。**

**泥棒に間違えられたら、いったんその場から退出し、まったく異なる場所から声かけしながら近づくと良い。**

**※否定しないでまず受け入れること。**

## ⑥幻覚への対応

**「私がいるから大丈夫です」などと保障してあげることが有効だが、その場合、声の調子や表情、態度など本人が安心できるようであれば帰って不安を増大させてしまうので要注意。**

**説得よりも、まず、安心感を持たせること。**

**同時に、内容を書き留めたい、幻視・幻聴を伴っているかなどを把握し、サービス提供責任者に報告する。**



## **⑦抑うつ、不定愁訴への対応**

- \*「依存心が強い」「甘えている」などと決め付けることを避ける。**
- \*安心感を与える声かけや非言語的コミュニケーションが効果的。**
- \*共感したり、支持することで安定することもある。**
- ※訴えの内容などを把握する。**

## ⑧何度もお腹が空いたという人の場合の 対応

飴や少しのお菓子などを用意すること  
も一つの方法ですが、食べすぎに問題が  
ある場合などは、本人が忘れてしまうこ  
とを利用し、「もうすぐできるから待って  
いてね」などとひとまず安心させること。

(うそも方便＝方便法)

## ⑨徘徊への対応

どうしても行かなくてはと、切迫感に駆られているようなときは説得しても効果はなく、無理にとめれば抵抗して暴力行為にいたることもある。

落ち着いてもらうには本人の気持ちに共感し、しばらく付き合っただけタイミングを見て他の事に興味を振り向けてみる。

また、どんな目的があるのかを把握する。

何はともあれ本人の主張を認める。

## ⑩収集癖への対応

**まず、「危険物」「不潔なもの」に注意を要する。集めることにより日常生活が落ち着いている場合、取り上げると逆効果になるので、危険がない限り黙認する。**

**※場合によってはヘルパーが「もらい役」になったり、他のものを取り替えたいすると良い。**

## **⑪興奮・暴力**

- \* 本人が劣等感を持っている場合。**
- \* 体調の変化や不調を訴えられない場合。**
- \* 意思が伝えられなかったり、言葉の理解ができない場合に起きることが多い。**

**⇒興奮による血圧上昇・心臓への負担が考えられるので要注意。**

**⇒見下ろすような姿勢で話しかけると威圧的に感じて興奮することがある。**

- ⇒ **大声、命令、本人をつかんでの静止は暴力を助長させてしまうので注意する。**
- ⇒ **叱責、蔑視、拒否、無視など、このような態度はとらないように気をつける。**
- ⇒ **疲れや不満がないか観察する。**
- ⇒ **感情的に対応しない・言動を否定しないで、まずは受け止めること。**
- ⇒ **興奮して感情がコントロールできないときには、いったんその場を離れ、気持ちが落ち着くまで待つて対応する。**

## ⑫ 異食

**\* 異食は口唇期への回帰と考えられている。**

**\* 異食行為に対して何が原因か探った上でスキニップを図る。**

**⇒ 説得や抑制よりスキニップが効果的。**

**⇒ 過食の場合はノンカロリー食品を用いたり、拒食の場合は、医師と連携の上栄養確保を目的とした高カロリー食品の摂取を検討する。**

**⇒ 身体的なチェックを怠らないこと。**

## ⑬ 弄便

- \* 赤ちゃんへの回帰と考えられている。
  - \* 行動原則は「快」「不快」、気持ちがよければ眠ったり笑ったりするが、気持ちが悪ければ泣いて、周りの人に訴える。
  - \* 赤ちゃんと違って手が届くため、不快な物を自分で取り除こうとして、便に触ったり、触って気持ちが悪いから、あちこちになすりつけるようになる。
- ⇒ 不快な状態にしないようにすること。